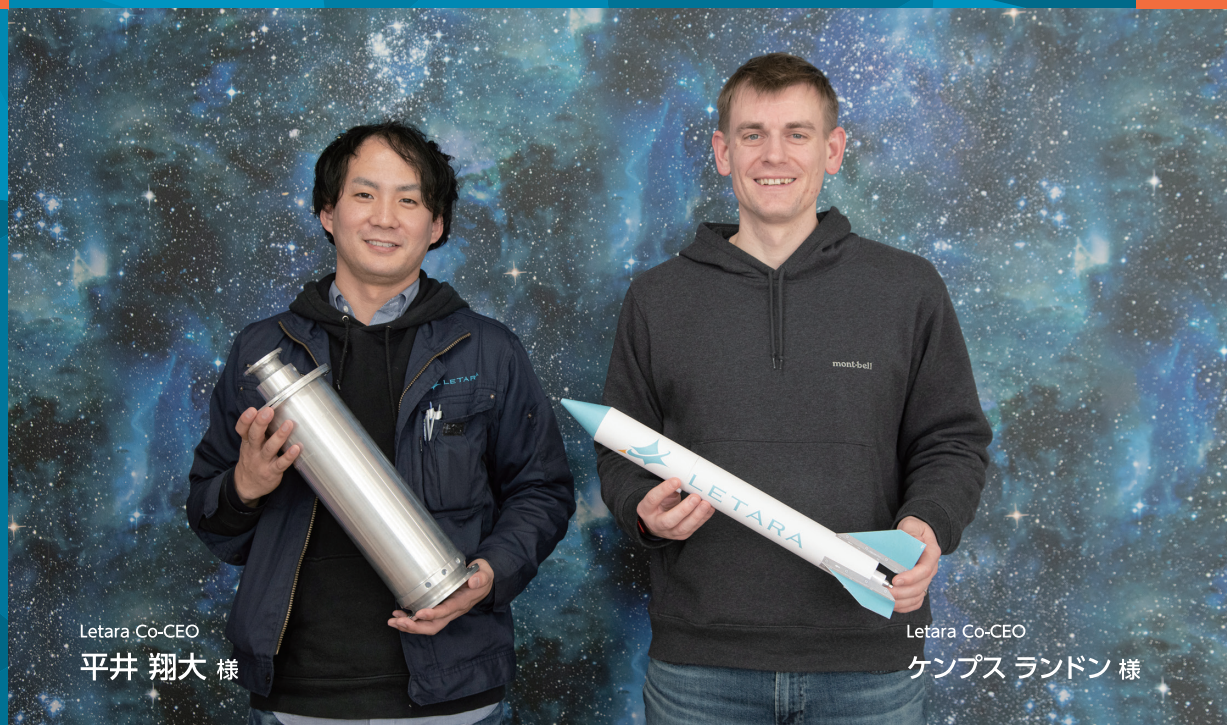


宇宙を駆ける未来へ！ 新たな事業に火をつける Letara社の挑戦と成長



Letara Co-CEO
平井 翔大 様

Letara Co-CEO
ケンプス ランドン 様



Letara 株式会社

2020年6月設立の北海道大学発スタートアップ企業。「Beyond the Earth, Faster and Further」をミッションに小型人工衛星に適した安全・安価な推進システムの開発、提供を行う。

ご紹介する補助金

イノベーション創出研究支援事業
産学連携創出補助金



その他ノーステック支援

経産省 Go-tech 事業



北海道に根ざした研究開発支援の一環として、ノーステック財団の「イノベーション創出研究支援事業産学連携創出補助金」は企業の研究開発を力強く後押ししています。今回は、2022年度に同補助金を活用したLetara株式会社の取り組みについてご紹介します。

ゼロからの研究開発に必要な支援

同社は、北海道大学宇宙環境システム工学研究室で開発された技術を社会実装するために2020年6月に設立。会社としての研究開発はゼロベースのスタートだったことから、社会実装を着実に進める研究開発費の支援を必要としていた。それまでも共に研究を進めてきた北海道大学大学院工学研究院の永田晴紀教授からの紹介によりノーステック財団を知り、同補助金の申請に至る。「スタートアップ企業としては“補助率100%”という点が非常に魅力的であり、支援額も補助金の趣旨としてちょうどよい条件でした」と平井氏は振り返る。

社会実装への橋渡し

科研費（科学研究費助成事業）は、多くの研究者にとって、研究を進めるために重要な支援である。しかし、社会実装を目指す場合、科研費だけでは十分ではなく、応用段階で活用できる資金が不足していた。同補助金は技術系のスタートアップにとって、産学連携とともに事業化に向けて資金のギャップを埋める重要な橋渡しとなった。

低濃度過酸化水素を活用した端面燃焼式ハイブリッドロケットの点火に成功。経産省Go-Tech事業の採択へとステップアップ

同補助金には、2つの研究シーズを組み合わせたテーマを提案。汎用型FDM方式3Dプリンタを利用して造形した燃料に対し、低濃度過酸化水素を酸化剤として用いることで、点火、及び本燃焼の一部までを成功。大きな課題であった燃料への点火技術のハードルをクリアした。また、同社としては、この補助金をきっかけに初めて正式に北海道大学との共同研究を開始。申請時には、平井氏とケンプス氏の2名体制でオフィスもない状態だったが、現在は札幌市発寒のオフィスと滝川市に研究開発拠点「Polaris」を構える50人規模の企業へと成長している。当財団との連携や同補助金を活用して蓄積したノウハウにより、次への課題を明確にできたことは大きな収穫となり、北海道ビジネスEXPO出展や経済産業省Go-Tech事業（成長型中小企業等研究開発支援事業）への採択などのステップアップへと結びついている。

補助金の申請は積極的に！

平井氏は「外部資金獲得のためには、尻込みせずには申請してみることが重要だ」と語る。同社でもここ数年、複数のプログラムに並行して申請を行っているという。申請書類の仕上がりに結果が左右されるケースもあるが、作成を重ねるごとにブラッシュアップされていき、採択率アップにもつながっている。当財団では申請前の事前相談や申請書作成サポートも行っている。ぜひ、積極的に活用してほしい。



プロダクトの社会実装、そして、海外展開へ

同社の目下の課題は、本補助金で点火に成功した低濃度過酸化水素を酸化剤としたハイブリッドロケットをはじめとする多様な技術を社会実装すること。来年2026年までには地上、及び宇宙での実証実験を行い、品質保証を確実なものとし、小型人工衛星に適した安全かつ安価な推進システムとしてプロダクトをマーケットに出していくのが目標だ。海外展開も視野に入れ、国際学会などへの積極的な出展の検討やさらなる資金調達を進めている。また、工学系の学生が道外へ流出していくのを危惧している。卒業後すぐに最先端の研究開発現場で活躍できるスタートアップが学生たちの受け皿となることで、北海道の航空・宇宙分野の発展と経済的貢献を目指す。

